

世界ガールズ・レポート 2017

UNLOCK THE POWER OF GIRLS NOW

WHY GENDER EQUALITY IS THE SOCIAL AND POLITICAL ISSUE OF OUR TIME

女の子の力を解き放て

ジェンダー平等が今日の社会的、政治的な課題である理由

EXECUTIVE SUMMARY

要旨

世界中の女の子は、どのような境遇であれ、ジェンダー平等に対する壁に直面しています。変化をもたらすための法律や政策、国際的な目標が整っていても、その速度は遅々としたものです。

プラン・インターナショナルがスペイン、ウガンダ、コロンビアで今年実施した調査では、ジェンダーの格差が社会に深く根を下ろしていることがはっきりとわかりました。私たちが収集した証拠は、社会のあらゆる側面に差別と暴力が複雑に絡んでいることを明らかにし、興味深くも恐ろしい現実を示しています。ジェンダー平等への鍵は、「女の子は男の子に劣るもの」として広く受け入れられている見方を問い直すことです。「女の子は男の子よりも劣る」という考えの刷り込みは、生まれたときから始まり、大人になっても続きます。

ウガンダのある若い女性は、このようにコメントしました。

「両親は男の子だけかわいがりました。女の子なんて呪いだともで言いました。私たちの住む地域では、男性が旅に出て一番はじめに出会うのが女の子であれば災いと考えられ、その場合には一度家に戻り、最初に男の子に会うまで出かけ直し続けるのです」

マーシー、16歳、ウガンダ

この報告書は若者、特に思春期の女の子の証言に焦点をあて、さらに彼らの人生に影響をおよぼす家庭、コミュニティ、国といった各レベルにおいて参加する権利に着目しました。女の子は家庭、学校、地域において、ほとんどの場合に参加の機会がなく、存在をきちんと認められていません。彼らの声と経験が影響力をもつことや、変化を促すことはなく、自分たちの人生を左右するような決断、例えば学校を辞めるにも、結婚するにも、自分で決めることはできません。社会において女の子は見えない存在です。私たちは報告書の作成にあたり、彼らがどのような対策を望んでいるのかについて、注意深く耳を傾けました。

女の子の生活実態を調査

「女の子は、感情や要求を声にだして伝えることを恐れたり、女の子だからと怖気づいたり肩身の狭い思いをしなくていいだけの自信をもちたいと望んでいます」

アンドレア、15歳、エクアドル

プランは、過去4年間にわたり3つの大きな調査「Hear Our Voice」、「Girls Speak out」、「Counting the Invisible」を実施し、世界各地の思春期の女の子と男の子のものの見方を分析しました。今年、発表された「Voices of Hope」も同様のアプローチで書かれた報告書です。これらの調査で明らかになった彼らの声には、女の子の人生を取り巻く状況を変えるうえで役に立つヒントがあります。意思決定の立場にある人々は、女の子の意見を聞いて、取り入れなければなりません。これまでの調査で共通する明確な点は、決定権が男性に独占されている状況には必ずジェンダーステレオタイプ*が存在するということです。女性や女の子を劣るものとみなす、意識に深くしみついた考え方は、不平等をなくすうえで最大の障壁です。これを変えることは至難の業ですが、決して素通りすることはできません。

*人々が共有し思い込んでいる、男らしさ、女らしさなどに基づく性的な役割分担

不平等が維持される要因：貧困と暴力

コロンビアとウガンダで行った今回の調査において、参加者は暴力の蔓延、家族状況や経済的な困難などを含む、地域での複雑に絡みあった問題を指摘しました。コロンビアの男の子は、街角での暴力、ギャングや薬物の問題について語り、女の子は性暴力や性的な嫌がらせについて語りました。家庭の内外に日常的に存在する暴力の脅威は、女の子の成長とともに複雑化する家族関係の問題とセットで、ウガンダにおける調査でも共通して見られました。

貧困や経済的な困難は、調査に参加した人々に共通する日常の現実であり、その影響の仕方は性別によって異なります。コロンビアでは、女の子は教育を受けることへの影響を心配し、男の子

はギャングや薬物の売買の道に入ってしまうことが問題になります。ウガンダにおいても、貧困は女の子の教育に影を落とし、お金がないがために売春を行う場合もあります。

「家庭の問題が、女の子を男性との関係に走らせてしまうこともあります」

インタビュアー「女の子が男友だちをつくると、問題は解決するのでしょうか」

「その時はそれが解決だと思っているかもしれませんが。でもその先には、もっと深刻な問題を抱えることになります」

エディス、16、ウガンダ

家庭から始まる差別

両国において、女の子は家庭や家族のなかで、性別の違いに基づく力関係や差別を日々経験していると述べています。彼らが不公平と感じているのは、勉強や遊び、休憩の時間が制限され、権利が制限されている点です。

「家では、掃き掃除、皿洗い、洗濯をこなさなければなりません。男の子ばかり清潔に宝物のように大切にされているのを見ると、つらい気持ちになります。どうして私だけがすべての家事をして、兄弟の服までも洗わないといけないのでしょうか。男の子にだってできることです」

パオラ、16 歳、コロンビア

一方で、女の子は男の子も両親や友達の期待に縛られていることを理解しています。

「不文律のようなものがこの国にはあります。『男の子が 13 歳になってガールフレンドをもたなければ、同性愛者』というものです。ギャングのメンバーから広まったものです。今では、誰も『13 歳になってガールフレンドもないなんて同性愛者だ』と考えるのが一般的です」

ルイーザ、14 歳、コロンビア

スペインでは、女の子が伝統的な家族内の役割に腹立たしさを抱いています。

「両親は、いまだに女の子は将来のために家事を身につけておくべきだと思い込んでいます。私には兄弟がいますが、身の回りのことは何ひとつできません」

フリア、14 歳、スペイン

スペインでは、身体的な暴力を問題として提起する女の子はいませんでした。固定概念に縛られない人に対する心理的ないじめが目立ちます。また、女の子は、男の子や男性からみた飾り物、性的な対象に過ぎず、いつもかわいくおしゃれをしていなければならないことに不満を表わしまし

た。

「私たちは完璧でなければならないということです。言葉では言い表せません。教育を受けていなければいけない。もちろん、その通りです。でも一方では話しすぎではいけないとも言われます。痩せている、可愛くしている、賢くあれ、そのうえ、夫にもボーイフレンドにも従順でいなさい、とされているのです」

サラ、19 歳、スペイン

変化をリードする若者たち

ウガンダとコロンビアで調査に参加した若者たちは全員、プラン・インターナショナルの活動「チャンピオン・オブ・チェンジ」のメンバーです。彼らはプログラムを通じて、自尊心を高め、まわりの人々の生活や考え方に影響をもたらし、自らも変化を体験した人たちです。女の子たちにとっても個々人へのエンパワーメントは、女の子は価値が高く、有能で、力強い存在であるという気づきを得る機会となります。

聞き取り調査において、何人もの女の子が、両親に対してジェンダーの不平等を指摘し、公正な扱いを主張している話を聞きました。

「私は母に、『私はお皿を洗わないといけないのに、兄弟は、ただ男性だからというだけで、家に帰ってきて、お皿を汚して洗ってもいいということはない』と言いました。それは男性優位主義だと言いました。母は少しずつ私の言っていることをわかってくれ、このことについてもっと話すようになりました。私は外出するときに行き先を母に告げます。兄弟も同じように外出するときに行き先を告げるようになりました。不平等を感じるものが少なくなってきたと思います」

ガブリエラ、15 歳、コロンビア

家庭では変化が生れていますが、地域となると様子は変わります。地域では、女の子は活動主体として関わることはできません。コロンビアのある女の子は、自分の地域の人々を「男尊女卑のかたまり」と表現し、またある女の子は、この男尊女卑取り除くのにはどれだけの年月が必要かと指摘しました。

「私たちが人々に、何が間違っているのかを教え、変化を促し、社会をよくするように取り組めているのは前進です。変化には時間がかかります。耳を傾けない人たちもいますが、一步一步教えていくのです。彼らに関心をもつようになるまで、海辺の砂を一握りずつつかむように」

ロレーナ、14 歳、コロンビア

一方で、「チャンピオン・オブ・チェンジ」プログラムが実施されてから、人々の自尊心や能力が発達した参加者の多い地域では、変化はより速い速度で進んでいます。ウガンダでは、現状に疑問をいだく女の子は、家族や地域に盾突かないようにというプレッシャーと、自分たちの声は無視されているという思いのはざまに悩まされています。コロンビアとウガンダの調査では、ほかと異なる女の子、社会に向かって発言しようとする女の子は、周囲の怒りを買って、いじめにあいやすいことが明らかになりました。

「周りの人々は私が従順でおとなしいと思っていました。私がそのまま大人になると考えていました。でも、私が意見を言い、遊びの時間をつくるようにしたら、彼らは私に言ったのです。『女の子がサッカーをやるものじゃない。おまえはおてんばになりすぎだ。足の骨を折るから、遊ぶのはやめなさい』 近所の人たちにそんなことを言われるとは思わなかったし、友達が離れていくのにもはじめは傷つきました。でも、こう思ったのです。『もし彼らが私への愛情から言っているのなら、理解しあえるはずだ』と。私はボール遊びをしても、男のようになるわけではないことを説明しました。サッカーをしたり、パンツをはいたり、女の子のままです」

ガブリエラ、15 歳、コロンビア

コロンビアとウガンダの若者たちは、コミュニケーション戦略に焦点をあて、普段ならジェンダー平等に関心を示さない人たちの関心を引きつけるアイデアを出し合いました。

「お話しや、演劇、または映画やパンフレットの作成など人の関心を引くものに取り組みました。新聞を読まず、映画やインターネットに関心の強い人たちの興味をひく方法を考えました」

ジュアン、16 歳、コロンビア

暴力への挑戦

「私が市長だったら、女性への暴力を禁ずる法律を実現させます。法律を守らなければ、処罰されるのです」

シンディ、15 歳、コロンビア

コロンビアで調査に参加した思春期の女の子は、自治体や国レベルの政治家や、ジェンダー平等の推進や暴力からの女性の保護を担当する行政官との関係性を構築していました。安全な公共空間、被害者を二次被害にさらすことなく暴力を通報できる適正なシステム、地方と国におけるジェンダー平等の公的なキャンペーンを望んでいます。

「市長は私たちよりも力があります。プロジェクトやキャンペーン、社会運動を学校で主催し、平等について対話の機会をつくることができます。ジェンダー平等の映像を制作して、話し合う企画だ

って可能です」

カロリーナ、16 歳、コロンビア

さらに、若者たちはメディアの役割について話し、特に、女の子や女性への暴力を当たり前を描くドラマに言及しました。コロンビアの 15 歳の男の子によれば、「男の子はテレビで男が女をなぐるのをみて、まねしたくなるのさ」

連携と支援の拡大

若者たちは、ジェンダー平等への取り組みに重要な人々との連携の可能性を列挙しました。家族の意識を変えることは、変化より広がりをもつための礎であり、両親の理解とサポートは欠かせません。男性が多い分野で障壁を取り除き、成功をおさめたような目標となる女性も重要なパートナーです。さらに、NGO、教師、地域や宗教的リーダー、メディアがあげられました。一方で、国をはじめとする機関との連携の弱さを認識していて、政治家や官僚からの支援を取りつけるのに不安を抱いています。

「政治家は多くの若者たち、地域や一族のメンバーにとって規範となる存在です。彼らは地域での対話を通じて、ジェンダー平等の進め方やほかの地域課題の解決方法を取りまとめて、女の子や男の子の状況をよくすることができます。政治家は、若者たちが社会規範を変えていくためのプログラムを支える資金をつけることだってできるのです」

オドンゴ、16 歳、ウガンダ

まとめ:

女の子が世界を変えるためには、手助けが必要

調査では、社会のルールや姿勢を変えるには、男性の手にある決定権に焦点をあてる必要があることが明らかになりました。目に見えず、内在化した、不平等な力関係を変えられない限り、大きな変化は期待できません。プランの調査によると、スペインでは、ジェンダーの不平等は、女の子が男の子の力を借りて挑戦していくべき課題と捉えられていました。ウガンダやコロンビアにおいては、男の子もジェンダーの不平等による難しい状況に置かれていると考える参加者が多く、性別によって希望や夢が条件づけられたり、制限されたりしない社会をつくっていく責任を自覚しています。変化にむけて男の子も女の子も、それぞれが責任を担いはじめていることはとても重要です。

「大統領、市長、知事やその他のリーダーは人権を心得、皆に平等な社会をつくることができます。人権を守ることがどういうことかを、指導者たちは知っているはずで、そして、私たちも。すべて

は家庭から始まります」

アドリアーナ、16 歳、コロンビア

ジェンダー平等を促進する法律と政策は、スペインのみならず、多くの国にあります。それにもかかわらず、調査からは、ジェンダー平等の考え方が若者たちの間でも根づいていないことがわかりました。すべての調査で、女の子がいまでも男の子に劣るものとして扱われ、女の子自身も自分たちをそのように見ていることが明らかになりました。

変化を起こすためには、ジェンダー平等が社会的、政治的な重要課題として認識されること。そして権力者は、女性たちの才能を無駄にし、私たちの生活を悪化させる、人々のなかに深く根づいた女性を軽視する考え方に変化を引き起こす必要があります。

提言：女の子の力を解き放て

1. ジェンダー平等のための政治的、社会的変革

各国の政府は、家庭から理事会室、政治機関やメディアにいたるあらゆる、公共および私的な空間において、女の子と女性への暴力に終止符を打つために介入しなくてはなりません。そのためには、公的なキャンペーンに資金を充てて、女の子と女性が男の子と男性と等しく尊重される大きな変化を起こすことが欠かせません。

2. 権力や影響力をもつ立場への女の子の進出

女の子は変化を起こすことができますが、助けが必要です。国際的な資金援助は、ジェンダー平等に充てられる必要があります。

3. 思春期の若者たちへの理解を深めるためのさらなる努力の必要性

政府、市民社会、企業、地域のリーダー、親、女の子と男の子本人たちがジェンダー差別に取り組むことが不可欠です。

「大人が、私たちの生活や人格の基礎をなしています。彼らがジェンダー平等をふまえて考え、行動したら、若者たちはもっと自信をもてるはずです」

ヴィヴィアン、14 歳、コロンビア